

光学式文字認識 (OCR) サービスを使用すると、道路標識や製品の写真などの画像や、送り状、請求書、財務報告書、記事などのドキュメントから、印刷または手書きのテキストを抽出できます。ディープ ラーニング ベースのモデルを使用して、さまざまなサーフェスや背景のテキストを操作します。

OCR API では、[複数の言語](#)で印刷されたテキストの抽出がサポートされます。[クイックスタート](#)に従って始めてください。

このドキュメントには、次のような記事が記載されています。 * [クイックスタート](#)は、サービスの呼び出しと結果の取得を短時間で行えるようにする、ステップバイステップの手順です。 * [攻略ガイド](#)には、より具体的またはカスタマイズした方法でサービスを使用するための手順が記載されています。

サポートされている言語

OCR API では、印刷スタイルのテキストとして合計 73 言語がサポートされています。[OCR でサポートされている言語](#)の完全な一覧を参照してください。手書きスタイルの OCR は、英語でのみサポートされています。

入力の要件

Read 呼び出しにより、画像とドキュメントが入力として取得されます。これには次の要件があります。

- サポートされているファイル形式: JPEG、PNG、BMP、PDF、TIFF
- PDF ファイルと TIFF ファイルの場合は、最大 2,000 ページ (Free レベルの場合は最初の 2 ページのみ) が処理されます。
- ファイル サイズは 50 MB 未満 (Free レベルの場合は 4 MB)、寸法は 50 x 50 ピクセル以上 10,000 x 10,000 ピクセル以下にする必要があります。
- PDF の寸法は、17 x 17 インチ以下である必要があります (リーガル サイズまたは A3 サイズ以下の用紙に対応します)。

Read API

Computer Vision の [Read API](#) は、印刷されたテキスト (複数の言語)、手書きのテキスト (英語のみ)、数字、通貨記号を、画像や複数ページの PDF ドキュメントから抽出する、Azure の最新の OCR テクノロジーです ([新機能について学習する](#))。これは、テキストの多い画像や、混合言語を含む複数ページの PDF ドキュメントからテキストを抽出するように最適化されています。同じ画像またはドキュメントで、印刷と手書き両方のテキストの検出がサポートされています。

クラウド API の使用またはオンプレミスでのデプロイ

Read 3.x クラウド API は、統合が簡単で、すぐに生産性を上げることができるため、ほとんどのお客様にとって推奨される選択肢です。 Azure と Computer Vision サービスがスケール、パフォーマンス、データ セキュリティ、コンプライアンスのニーズに対応する一方で、お客様は顧客のニーズを満たすことに集中できます。

オンプレミスでのデプロイの場合、[Read Docker コンテナ \(プレビュー\)](#) を使用すると、独自のローカル環境に新しい OCR 機能をデプロイできます。 コンテナは、特定のセキュリティ要件とデータ ガバナンス要件に適しています。

OCR API

従来の [OCR API](#) では、古い認識モデルが使用されており、画像のみがサポートされ、同期的に実行されて、検出されたテキストは直ちに返されます。 サポートされている言語の一覧については、[サポートされている言語](#)の OCR の列を参照してください。

[!WARNING] Computer Vision 2.0 RecognizeText 操作は非推奨になる予定であり、この記事で取り上げている新しい [Read API](#) がその代わりになります。 既存顧客の皆様には、[読み取り操作をご利用いただくよう](#)にお願いします。

データのプライバシーとセキュリティ

Cognitive Services 全般に言えることですが、Computer Vision サービスを使用する開発者は、顧客データに関する Microsoft のポリシーに留意する必要があります。 詳細については、Microsoft セキュリティ センターの [Cognitive Services のページ](#)を参照してください。

次のステップ

- [OCR \(Read\) REST API またはクライアント ライブラリのクイックスタート](#)を参照して使用を開始します。
- [Read 3.2 REST API](#) について学習します。